

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

企業就労を通じて自立と社会参加を促進し、社会に貢献できる人材を育成する学校。

1 生徒の人権を尊重し、個々のニーズをふまえた教育実践を進め、企業就労と社会貢献を実現させる。

2 地域、大学、企業、福祉・労働等の関係機関との幅広い連携や交流を充実させ、生徒が主体的に社会に参加できる力を育てる。

3 教員の専門性を高め、社会の変化や多様性を踏まえた組織を構築することで、職業教育の充実を図り「働き続ける力」を伸ばす。

2 中期的目標

- 1 社会的自立に必要な力を養うための特色ある**教育活動の充実**
- (1) 新学習指導要領をふまえた教育課程により、確かな学力をはぐむための「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努める。
*学校教育自己診断の「授業中に発言や発表することがある」の項目では生徒の肯定率を 80％以上にする。(R2:80.7％、R3:75.6％、R4:79.1％)
- (2) キャリア教育の観点からの自立活動を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、自主性・自立性を育成するための適切な指導、支援を行う。
*高等支援学校ならではの適切で有効な自立活動を実施し、専門人材の活用等により効果的かつ効率的な指導、支援を行う。
- (3) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現と「働き続ける力」を育成するための「進路学習・進路指導」を推進する。
*全生徒に学校生活を大切にしたい規則正しい生活習慣を定着させ、豊富な実習体験により適切で効果的なジョブマッチングを重視した進路指導を行う。
高い就労率と定着率を維持し、アフターフォローについても重視する。定着率 100％をめざす（再雇用含む）(R2:97％、R3:96％、R4:87％)
- (4) 生徒 1 人 1 台端末と電子黒板等 ICT 機器を効果的に活用した授業等の一層の推進に努める。
- (5) 生徒会活動の充実、高等支援学校や高校（高等部）とのスポーツ交流機会の拡大と部活動の活性化を図る。
- 2 高等支援学校教員としての**資質の向上**とこれからの時代の変化に対応できる**学校組織力の向上**
- (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の育成をめざす。
- (2) 生徒への適切な指導実践を行うために、教職員一人ひとりが人権意識をより高め、障がいの理解や支援方法などについて、専門性の向上を図る。
*学校教育自己診断の「担任の先生に、困っていることや、悩みを話せる」の項目で肯定率 80％達成をめざす。(R2:77.3％、R3:77.8％、R4:65.9％)
*令和6年度には支援学校教員免許の所有率 80％以上をめざす。(本校籍教員 R2: 62％、R3:70％、R4:63％)
- (3) 教員間の意思疎通を図り、経験年数の少ない教員への手厚い支援や健全な同僚性のもと、積極的に学校経営に参画する仕組みを整え、組織力を向上させる。
*学校教育自己診断の「学校組織」での全項目（特に「経験年数の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」項目）で肯定率を 75％とする。(上項目 R2:50.0％、R3:58.5％、R4:73.3％)
- 3 地域、大学、企業、福祉・労働等関係機関との**連携や交流を充実**させるとともに、積極的に情報を発信し、本校の教育活動への**理解啓発**を推進
- (1) 地域社会の中で積極的に活動し、豊かに生きるために交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で連携を図り相互理解を深める。
*大学との共同研究を進める。
- (2) 本校の様々な教育活動を積極的に外部発信するなど広報活動の充実を図り、高等支援学校の特色を地域、企業に広める。
- (3) 危機管理体制の充実と地域との連携により防犯・防災教育を行い、「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上をめざす。
- (4) グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速度的な変化に対応するため、国際理解教育、国際交流を推進することで、国際的な視野を育むとともに、これからの時代に生きる力を育成する。
- 4 校務の効率化による働き方改革
- (1) 校務運営の効率化を図る。
- (2) ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学校生活】について 生徒は昨年度よりも数値は高かった。 「学校行事は楽しみである」は 90.9％で初めて 90％台。 「生徒会・委員会活動で学校がよくなっている」は 88.6％、R4より約 10％高く、初めて 80％台。3 項目の平均値 89.8％。5 年間で最も高い。 学校生活全般への肯定的な思いが高まっている。保護者も同様に R4より数値は高かった。生徒が肯定的な考えを家庭で話し、保護者の受け止め方も同様になったのだと思われる。 教員は「生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、適切な支援が行われている」は 95.0％。これまでで最も高い。「行事や特別活動が魅力あるものとなるよう工夫、改善を行っている」は 82.5％。これまでで最も低い。「行事をもっと工夫できるのでは」という意識かと考えられる。 【授業】について 生徒は R4 よりも数値の高い項目がほとんど。 「授業はわかりやすい」は 94.3％。 「授業中に発言する機会がある」は 85.2％。 「先生は、授業の内容や教え方など工夫している」は 97.7％。 いずれもこれまでで最も高い。生徒の全項目の中で最も高い。 「学校は、1 人 1 台タブレットを使って、わかりやすい授業をしている」は 92.0％。R4 と同様 90％台。4 項目の平均値は 92.3％。これまでで最も高く、授業全般への肯定的な思いが高まっている。 保護者も同様に R4 より数値は高い。 「学校は、生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している」は 83.8％。初めて 80％台。「無回答」が半減し、学校での活用状況が保護者に伝わった。 教員は「教員はわかりやすい授業となるように授業改善や工夫を行っている」は 95.0％。5 年連続 90％以上。 「コンピュータ等の ICT 機器が、各教科の授業などで活用されている」は 97.5％。 「生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している」は 92.5％。いずれもこれ	第 1 回 7 月 28 日開催 ○令和5年度「学校経営計画」について ・ICT 関連は、この 3 年で 10 倍のペースで拡大している。都会ではデジタル化が進んでいる地域がある一方で、過疎地域においては回覧板が主流な地域もある。保護者への配付文書のデジタル化は時間がかかることが予想されるが、ぜひとも進めていただきたい。 ・保護者への配付文書のデジタル化にはついていけない保護者も一部いるだろう。だからといって、デジタルと紙の両方での対応を続けることは、働き方改革のねらいとずれる部分もあるだろう。 ○令和5年度 使用教科用図書選定について ・社会の教科書の内容が古いようだ。成人年齢が 20 歳のままで、18 歳になっていない。障がい者支援法の記載が追いついていない。 ・教員作成の資料やインターネットを活用した授業で 18 歳成人について対応している。 ・体育の教科書にフォークダンスがあり、懐かしい。ダンスのすべては無理だとしても、どれを選んで指導するのか。 ・フォークダンスは「型」が決まっていて、ダンスが苦手な方でも取り組みやすい。知的障がいのある方のダンスチーム等が各地で盛りあがっている。 ・ビジネスマナーに関する本は、高等支援学校ならではの。大学生は買わないだろう。例えば、遅刻をする際の連絡の仕方など、知らない大学生も多いだろう。職につながることを教えてもらっていて、先生方には感謝している。教科書は子どもから見せてもらったことがないため、今回見ることでできて良かった。 ○学校いじめ防止基本方針について ・携帯電話やメールが流行り出した時に、「金を貸してくれ」「バイク盗んでこい」といったやり取りが増えた。加害者意識のないまま、メッセージを送っている。受け手がそのとおりに行動するのか、「困ったこと」として感じるができるかどうか。保護者の見えないところでトラブルが起きている。学校内で全て指導することは難しい。「いじめは 100％ない」と安心できる環境を作るためには、学校だけでなく、家庭や社会の当事者意識や未然防止策、発生時の解決に向けた協力が必要不可欠である。事が起きてから騒ぐのではなく、地道な体制づくりが、いざという時に役に立つだろう。

府立とりかい高等支援学校

までで最も高い。
「自立活動の指導は生徒が興味を持って主体的に取り組めるように工夫している」は 55.0%。R4 よりも約 16% 低く、これまでで最も低い。また教員の全項目の中で最も低い。背景には、下校前の自立活動の時間は、清掃、連絡帳の記入等がルーティン化されている反面、生徒の個別対応の時間を取りにくい面や具体的な指導方法の共有が不十分と推察される。自立活動はどの授業でも取り組むことから、担任は生徒の課題を積極的に発信し、各授業での様子を集約することが必要。
【進路指導】について
生徒は R4 よりも数値は高かった。
「将来の進路や生き方について考える機会がある」は 93.2%。
「学校は進路についての情報を知らせてくれる」は 96.6%。いずれもこれまでで最も高い。また生徒の全項目の中で 2 番目に高い。3 項目の平均値は 92.8%。5 年間で最も高い。進路指導全般への肯定的な思いが高まっている。
保護者は R4 よりもやや低くなったが、90% 台。
教員は「生徒が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている」は 97.5%。これまでで最も高い。
「興味・関心、適性に応じて進路指導ができるよう、きめ細かい指導が行われている」はこれまでで最も低いが 90% 台。3 項目とも、5 年連続 90% 台。進路指導における実践と成果に多くの教員が自信を持っていることの表れ。
生徒、保護者、教員とも、どの項目も 90% 以上であり、本校の進路指導が高い水準にある。
【教員について】
生徒は R4 よりも数値の高い項目がほとんど。
「先生は、みんなの意見を聞いてくれる」は 94.3%。これまでで最も高い。
「学校生活についての先生の指導は納得できる」は 90.9% で、初めての 90% 台。
「先生は、自分のことをよく理解してくれている」は 90.9%。R4 よりやや低くなった。6 項目の平均値は 85.8%。5 年間で最も高い。教員への肯定的な思いが高まっている。
保護者は昨年度よりも数値の高い項目がほとんど。
「教職員は、子どもの障がいを理解している」は 93.2%。これまでで最も高い。
教員は昨年度よりも数値の高い項目がほとんど。
「教職員は生徒の意見をよく聞いている」は 90.0%。これまでで最も低い。5 年連続 90% 台。
「教職員の服務規律への自覚が高い」は 85.0%。これまでで最も高い。服務に関する意識はより高い次元が求められる。4 項目の平均値は 90.6%。初めて 90% 台。5 年間で最も高く肯定的な思いが高まっている。
【人権教育（道徳）について】
生徒は R4 よりも数値は高かった。
「いのちや人権の大切さについての学習はわかりやすい」は 95.5%。これまでで最も高い。
「社会のルールについての学習はわかりやすい」は 95.5%。これまでで最も高く、5 年連続 90% 台。2 項目の平均値は 95.5%。5 年間で最も高い。人権教育（道徳）への肯定的な思いが高まっている。
教員は「道徳教育は、年間計画に基づき、継続して行われている」は 67.5%。4 年連続 60% 台。これまで以上に各学年の年間計画の周知を徹底し、日々の実践と評価を教員同士で話題にできる雰囲気醸成が求められる。
【性に関する指導】について
生徒は「性についての授業はわかりやすい」は 92.0%。初めての 90% 台。これまでで最も高い。
保護者は「性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている」は 79.7%。これまでの平均的な値。保護者の全項目の中で最も低い。「無回答」が 8 で、5 年間の平均は 10 と多いため、保護者への資料の配付や懇談時の話題にするなどの工夫が必要。
教職員は「性に関する指導は、生徒の実態に応じて適切に行われている」は 72.5%。R4 よりも約 15% 低い。「集団指導」と「個別指導」のどちらに主眼を置くか、あるいは同時進行が望ましいか、計画的な進め方には議論の余地がある。
【個別の支援】について
保護者は「学校は、個別の指導計画・教育支援計画について、機会を設けて説明している」は 97. 3%。5 年連続 95% 以上。保護者の全項目の中で 2 番目に高い。
「個別の教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている」は 93.2%。これまでで最も低いが、5 年連続 90% 以上。
教員は「個別の教育支援計画・指導計画は、ニーズを踏まえて作成し、保護者に開示・説明している」は 97.5%。これまでで最も高い。
保護者も教員も「個別の指導計画等」を有効活用できている。
【生徒評価】について
保護者は「個別の指導計画（通知票）は、子ども学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている」は 97.3%。5 年連続 95% 以上。保護者の全項目の中で 2 番目に高い。
教員は「教育活動全般にわたる評価を次年度の計画に生かしている」は 90.0%。初めての 90% 台。
【危機管理】について
生徒は「地震や火災の避難訓練の学習はわかりやすい」は 94.3%。初めての 90% 台。生徒のスマートフォンを使用した安否確認など、日常との繋がりを意識した防災訓練が生徒の関心を高め、理解につながった。
保護者は「地震や台風などの場合の対応について、子どもや保護者に周知されている」は 91.9%。これまでで最も低いが、5 年連続 90% 台。「学校では、子どもに関するプライバシーが守られている」は 94.6%。これまでで最も高い。
教員は「災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、防災計画が整備されている」は 87.5%。R4 より 5% 高い。より安全で実効性のある防災計画を早急にまとめる必要と迅速に行動できるよう、教員の役割分担等について教員一人一人の熟知が求められる。
【家庭との相互理解】について
保護者はほとんどの項目が 90% 以上。
「学校は、教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている」は 98.6%。これまでで最も高い。保護者の全項目の中でも最も高い。
「学校は、保護者の子どものことについての悩みや相談に適切に応じてく

- 最後は、生徒と教員の信頼関係が重要になってくる。
- いじめに関するニュースが流れる度に、心に傷を受ける生徒もいるかもしれない。本人に自覚なく、他者を傷つける場合もあるだろう。どうやって未然に防ぐかが課題である。学校全体で考えていくことになるだろうが、委員にも力になれることがあればお声掛けいただきたい。
- 令和 4 年度 3 年生（8 期生）進路状況について
- 特例子会社への就職者数が減少している。生徒はどう考えているか。社会の障がい者の雇用熱が高まっている。
- 最近では企業から「障がい者の雇用について一から始めるには」「法定雇用率が上がったことへの対応」といった相談が増えている。中途者の特例子会社への就職はハードルが高いようである。
- 保護者としては、いろいろな仕事があることについて、十分に説明できない。子どもの方が学校で教わって把握している。品出しにしても、やり方はスーパーごとに異なる点など。
- 業種ごとの紹介ビデオがあるとわかりやすいだろう。

第 2 回 11 月 24 日開催

- 授業見学について
- どの授業でも ICT が活用されていた。新学習指導要領に「生徒が自分で考えて発信する」とあり、まさに、生徒が ICT を活用して発言する場面が設定されていた。
- 外国語はとても楽しい雰囲気であった。ネイティブの方の発音を聞く機会があることはとても良い。研修旅行については、事細かくわかりやすい説明で、見落とししやすい部分を指摘していた。性教育は「性行為」「妊娠」「出産」と段階的に伝えていた。
- 外国語は生徒の表情がいきいきとしていて、楽しい雰囲気が印象に残った。昔は一方通行の授業が多かった。生徒と教師、外国語講師が相互にコミュニケーションを取る実践授業に驚いた。
- 今の授業はこんなにも楽しいものなのか。生徒と教員の距離が良い意味で近い。
- 性教育で「相手の気持ちを考える」という点を伝えていたのは、とても大事なことで良かった。
- 外国語の授業は集中力を欠くことなく受けていて、子どもは楽しめていた。研修旅行は資料にマーカーを引くなど、落ち着いて聞けていた。性教育は 3 年生ということから、卒業までのあと少ししか受けられない。これからいろいろな人に出会う。望まない妊娠等、直面しそうな困りごとの相談先について学ぶ機会があれば、なお良い。
- 性教育については、支援学校の中でも先駆的な内容だろう。性教育の根底にある基本的なことに加えて、個別対応も織り交ぜながら、学校と家庭で連携して伝えていってほしい。
- 令和 5 年度「学校経営計画及び学校評価」の進捗について
- 昨年度の評価に近い、あるいはすでに上回っているものは、今後も続けてほしい。
- 昨年度の評価に届かなそうなものは、具体的な改善策を検討してほしい。
- 体育祭（10 月）アンケートについて
- アンケートの提出が少ないということは、「満足している」「意見はない」とも受け取れる。意見を求めるのであれば、出口に QR コードの看板を設置して入力を必須とするやり方だろうか。
- 令和 5 年度 3 年生（9 期生）の進路状況について
- 地域密着型の進路指導をされている。

第 3 回 3 月 1 日開催

- 令和 5 年度 学校評価について
- 先生方の努力がよくわかる内容であった。就労への意欲が 90% に届いている。感謝申しあげる。
- 弊社は 3 月 1 日が新年度の始まりで、人権を強く意識する時期である。人権に関する知識やノウハウを会社が持っていたとしても、世の中全体で人権について伝える必要がある。悲しい話であるが、障がい者施設での虐待件数が過去最大になった。社会に出てから、「これは虐待かも」「ハラスメントではないか」と受け止め、信頼できる人に相談できるようにするための指導が在学中に必要なと思われる。
- ストレスチェック度が 85 であることはとても良い。
- 令和 6 年度 学校経営計画について
- 心強い内容であった。生徒のよりどころとしての相談体制を続けてほしい。同時に教員のワークライフバランスにも工夫して取り組んでほしい。
- 学校祭（11 月）アンケートについて
- 特になし。
- 生徒保健委員会の活動報告（校外での発表）
- 特になし。
- 令和 5 年度 3 年生（9 期生）の進路状況について
- 就職率が 90% に近いのは先生方の努力の賜物である。とりかいに就学する意欲、日々をどのように過ごして就職につなげているのか、これからの生徒にも伝えていただきたい。
- 就職につながって嬉しいと同時に、障がい者就労ができる社会でありがたいという思いがする。先日受けた相談は「7 年勤めて、まだわからないのか」と言われたケース。これまでは安定して過ごしていた方で、相談は一度もなかったが、本人が泣いたことで相談につながった。聞いていて、胸が苦しくなった。我慢し続けるのではなく、相談できる社会であってほしい。社会の障がい者理解が進むようにしていきたい。
- その他、質疑応答
- 個人的には、ダンス部がグランプリを受賞していることに「やったー」という気分である。広報として、個人情報保護の兼ね合いがあるが、ホームページ上に動画を載せると外部の方も見られて良いのではないか。ICT の進んでいる取り組みも発信していただきたい。よくできていることはどんどんアピールする方が良い。校長から先生方の背中を押してはどうか。
- 数学に関連して、お金のことをどう教えていくか。最近はキャッシュレス化が進み、「見えないお金」をどのように管理するのが良いか。スマートフォンのアプリで残高確認などのデジタル社会になっている。悪い人間はよく考えるもので、デジタルに不慣れた人を狙った悪事が横行している。被害に遭わないために、学校でどう指導していくかご検討いただきたい。
- 人権に関して、あってはならない問題が日々生起している。日本はまだまだハラスメントの多い社会だといえる。ハラスメントに負けないためにも、「その時どうするか」を考えられる力をつけられる学びがあると良い。進路指導のアフターフォローのように、最善を考えるサポート体制の構築を母校に担ってほしい。
- 日々の進路指導に感謝している。子どもは、入学前は「就職のための力をつけたい」、卒業を控えた今は「とりかいに来て良かった」と言っている。これも先生方のおかげであり、感謝している。仕事として、療育手帳のない大学生の就労の支援をしている。とりかいで学んでいる「社会に必要なすごく大事なこと」を、大学生も教わる機会があっても良いと考えている。

府立とりかい高等支援学校

れる」は95.9%。これまでで最も高い。 「学校が保護者に出す文書・事務連絡等がわかりやすい」は95.8%。上記と合わせて3項目が95%以上。R6以降は、保護者文書のデジタル化を進める予定で、わかりやすくするためのより一層の工夫が求められる。 【情報発信 地域連携】について 保護者はすべての項目でR4より高くなっている。 「学習内容・学校生活の様子を懇談や連絡帳等によって、知ることができる」は97.3%。保護者の全項目の中で2番目に高い。 「学校以外の相談機関の情報を学校から必要に応じて入手できる」は83.3%。初めての80%台。 教員は「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」は80.3%。R4よりやや低くなり、この4年間で最も低い。ホームページがわかりやすく、入手したい情報が手に入るようにするために、各分掌等で発信する内容を精査する必要がある。 保護者の「学校のホームページはわかりやすい」は81.8%。教員の数値と同程度。今後のホームページの改良・更新により、保護者の数値がどのように変化するか注目。 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」は97.5%。これまでで最も高い。また教員の全項目中で最も高い。 【交流及び共同学習】について 保護者は「学校は、子供が地域や企業、他の学校など社会と交流する機会を設けている」は90.5%。昨年度より5%以上高い。 教員は「学校は、地域の行事参加等の機会を設け、地域との連携に取り組んでいる」は97.5%。R4より14%高く、これまでで最も高い。コロナ禍を経て、地域イベント等への参加が再開されたり、地域団体との連携が新たに始まったりしたことがその理由。 【学校組織】について 教員は「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」が97.5%。R4よりも14%高い。初めての90%台。 「業務上、相談できる相手がいる」は90%。 「会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」は72.5%。この3年間でほぼ変わっていない。「意思疎通」の程度、「有効に機能」の判断が難しい面があるのかもしれない。限られた時間内で効率よく会議を進めることと、十分な意見交換を両立させるには、多くの工夫と意識改革が必要がある。 「教職員は学校の運営や改善に役立つよう、積極的に意見や考えを発信している」は72.5%。R4より6%低い。この5年間は68～78%で推移。 【研修について】 教員は「研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会が多く設けられている」は60.0%。R4より9%低い。この5年間は56～69%で推移。研修資料の回覧を推奨しているが、一部に留まっている。職員会議後の伝達講習の時間の確保が難しい回もあり、今後の進め方には協議が必要。	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 特色ある教育活動の実施	(1) 新学習指導要領をふまえた教育課程により「主体的で対話的な深い学び」を軸とした授業改善 (2) キャリア教育の観点からの自立活動とニーズに応じた適切な指導・支援 (3) 自己実現と働き続ける力を育成するための「進路学習・進路指導」を推進	(1) ア 新シラバスに沿った指導ができたかの検証 イ 専門人材の活用推進 ウ 昼休みに相談窓口を設置し、日常的、組織的、計画的に気軽に相談できる体制を継続する。 エ 安心・安全の保障 適切な感染症対応、アレルギー対応を継続する。 オ 規則正しい生活習慣への意識を向上させる。そのために家庭と連携した遅刻指導を徹底する。 (3) ア 職場開拓	(1) ア・毎月の教科・学科会議にてシラバスや授業内容の確認を継続 ・授業の改善等のための教科会を毎月実施 ・学校教育自己診断「意見を伝える、発表することがある」肯定率80%以上 [79.1%] (2) ア・キャリア教育の観点での自立活動に関する教員研修2回/年 [2回] イ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの活用年45回以上 [41回] ウ・学校教育自己診断「担任の先生に悩みを相談できる」「担任の先生に困っていることを話せる」肯定率80%以上 [68.7%] エ・感染症予防に関する指導の徹底 ・生徒保健委員会で手指消毒、咳エチケット、マスク着用、換気、教室の消毒を推進 オ・年間遅刻総数の減少200未満 [199] ・校門での登校指導、下校指導の徹底 (3) ア・進路指導部を中心に効率的な職場開拓を実施(長期休暇中に全教員一人1回以上/年) [1、2年全員が開拓]	(1) ア・教科・学科会議を毎月開催し、授業改善を含めシラバスや授業内容を確認。R6に向けてシラバスの点検終了<○> ・学校教育自己診断「意見を伝える、発表することがある」肯定率85.2%<◎> (2) ア・キャリア教育の観点での自立活動に関する教員研修(7/21、1/9)実施<○> イ・SSW30日(6H/日)来校、臨床心理士15日(5H/日)来校<◎> 配当13日に加え学校予算で2日追加 ウ・ランチタイム相談会(月・水・木・金)を開催 ・学校教育自己診断「担任の先生に悩みを相談できる」「担任の先生に困っていることを話せる」肯定率77.3%<△> エ・新型コロナウイルス感染症に限定せず、自己管理について指導<○> ・5類感染症に移行後も教室、廊下の喚起を徹底<○> オ・年間遅刻総数148人(12月末現在)<○> ・生徒指導事案の際には、特に人数を増やして指導の徹底を図っている<○> (3) ア・夏季休業中に1、2年担当教員は企業開拓(企業セミナー等に参加した企業中心に)、3年担当教員は求職登録手続き<○>

府立とりかい高等支援学校

	（４） １人１台端末の効果的な活用と電子黒板等 ICT 機器を活用した授業等の推進 （５） 生徒会活動の充実とスポーツ交流機会の拡大や部活動の活性化	イ 企業への広報活動の充実 ウ 計画的なキャリア教育 新キャリアプランニングマトリックスに基づく指導の徹底 エ 校内外進路学習、企業実習の充実 オ 保護者や外部への十分な進路情報の発信 進路指導だより、PTA 研修会・見学会、ホームページの充実、ハイブリッドでの研修会の実施 （４） ア １人１台端末と電子黒板を活用した授業を実施 （５） ア 大会等への積極的参加 イ クラブの活性化 ウ 生徒会（委員会等）活動の充実	イ・企業への説明会、見学会実施３回〔２回〕 ・個別の見学会実施 30 件 / 年をめざす〔個別見学 25 件/年〕 ウ・新キャリアプランニングマトリックス研修を２回実施〔実績なし〕 エ・就労や社会参加につながる企業実習を２年修了までに４社以上達成者５割維持〔２年生５割〕 ・教員研修５回〔４回〕 オ・学校教育自己診断「学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる」肯定率 85%以上〔78.8%〕 （４） ア・全授業で一斉または個別学習に対応できているか、公開研究授業週間等を利用して確認 ・１人１台端末を活用した授業を全教員が通年で実施 イ・研究授業は可能な限り電子黒板、１人１台端末を活用５回〔２回〕 ・電子黒板、１人１台端末を活用した公開授業 15 人〔12 人〕 （５） ア・高等支援学校リーグ戦、府代表レベル、全国レベル大会出場 ・障がい者スポーツや文化芸術活動に積極参加 イ・クラブ加入率 80%以上〔70%〕 ウ・生徒会活動の府内発信 2 回〔１回〕	イ・企業対象説明会２回実施、摂津市商工会の学校祭参画(職業体験ブース、キッチンカー)＜○＞ ・見学会 42 社来校＜◎＞１月末現在 ウ・キャリアプランニングマトリックス研修を教務部、進路部担当で実施＜○＞ エ・２年修了時の企業実習４社以上 7 割＜◎＞ ・教員研修年間５回＜○＞ オ・「学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる」肯定率 83.8%＜△＞ （４） ア・全授業において、全教員が ICT 機器活用を行っている＜○＞ イ・1/12～18 の研究授業週間で全員が ICT 機器を活用した授業を実施＜◎＞ （５） ア・府レベルの大会に出場＜○＞ ・全国障がい者スポーツ大会に生徒が出場(個人３位、団体優勝)＜◎＞ ・ダンス部が「共に生きる障がい者展（グランプリ）」、高等学校芸術文化祭に出場＜◎＞ イ・クラブ加入率 65%＜△＞ ウ・生徒保健委員会が大阪府立学校保健研究会発表大会、大阪府学校保健・安全研究大会、全国学校歯科保健研究大会で発表３回＜◎＞
２ 高等支援学校教員としての資質の向上と学校組織力の向上	（１） 指導力、授業力の向上 （２） 人権意識を高め、専門性の向上 （３） 経験年数の少ない教員への支援と積極的な学校経営参画と組織力向上	（１） ア 新転任者を対象とした校内外研修の充実 イ 公開研究授業週間の充実 ウ 高等支援学校のミッションの理解 （２） ア 人権意識、コンプライアンス意識の向上を図る イ 専門性の向上 ウ 教員がビジネスマナーを習得する（教員の授業に応じた身だしなみ、言葉づかい、TEL 対応等徹底） （３） ア 人材育成の推進 ・ミドルリーダーの育成 ・新転任者、経験年数の少ない教員への支援	（１） ア・新転任研修の充実のため、首席、指導教員による事例を活用した研修を実施 12 回〔10 回〕 イ・公開研究授業週間２回/年実施を継続〔２回/年〕 ・他の全高等支援学校説明会への参加〔１校〕 ウ・オープンスクール、学校見学会、高等支援学校研修会で新転任者が説明 3 回〔２回〕 （２） ア・人権研修３回/年（同和問題、体罰防止、卒業後の生徒支援関係）継続 ・日常的な授業観察を通して教員間、対生徒への丁寧な言葉遣いの徹底 ・SNS 等インターネット上に係る差別やいじめに関する研修実施 2 回〔１回〕 ・個人情報の扱いに対し、教職員の意識向上とセキュリティポリシーの遵守の研修 2 回〔１回〕 イ・支援学校免許取得本校籍 80%以上〔63%〕 ・障がい理解研修 2 回 ウ・ビジネスマナー研修 3 回〔２回〕 （３） ア・首席による OJT、教育庁の研修等活用 ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率 60%以上〔54.8%〕	（１） ア・研修を実施 12 回＜○＞ イ・公開研究授業週間年２回(４日間)実施＜○＞ ・他の高等支援学校説明会等への参加４人２校＜◎＞ ウ・研修会等での説明年間８回＜◎＞ （２） ア・人権研修３回＜○＞ ・授業観察等により、丁寧な言葉遣いの徹底＜○＞ ・SNS 研修 2 回実施＜○＞ ・個人情報の取扱いに関する研修 2 回＜○＞ イ・支援学校免許取得本校籍 60%＜△＞12 月現在 ・障がい理解研修 1 回＜△＞ ウ・ビジネスマナー研修 3 回＜○＞ （３） ア・首席が学年主任、分掌長と連携、情報を密にし、OJT を行っている＜○＞ ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率 60%＜△＞

